

早稲田大学 人間科学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	正誤問題が非常に多く、正確な知識が問われている問題が多い。どれくらいきちんと対策を取っていたかでかなり点差がついたであろう。以下の、大問別の難易度を見て、自分の感覚よりも易しい表示の大問があったら、今までの学習水準を考え直す必要がある。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代の都城	第一文学部でも同じテーマが出題されていた。早稲田にしてはめずらしく地図が出されたが、定番問題なので、非常にやさしかった。問11のみ、やや難しい。	やや易
II	中世の政治	早大入試では定番の史料をまじえつつ、見慣れたテーマの問題であった。問6のみ、やや難しい。消去法で解けたかどうか。	やや易
III	中世・近世の文化 関係史料	4つの史料はどれも未見史料だが、設問文にヒントが隠されていて、何の史料か判別できる。推測で解く問題が多く、また、文化史の人物の時期をしっかりと把握していないと解けない問題も目立つ。ここで大きく点差が開いたであろう。しかし、これでも、難問と言えるのは問10だけである。	標準
IV	近代の植民地政策	これもまた早大入試定番のテーマからの出題。受験会場で思わず笑った人もいたであろう。問2は「ア」ではない、あくまでも「○」は遼東半島を指していなければならないはずだ。それは「エ」の「○」の位置からも言えることである。問7・10・14がやや難しい。問15は、設問条件を考えると「ア」を正解とすることに疑問もあるが、これしか選びようがない。	標準